

町長室から

田上町長 佐野 恒雄

暑さもようやく和らぎ、朝夕には秋の気配を感じる季節となりました。町民の皆様には、日頃から町政の推進にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

9月12日から10月12日まで「国際田上竹祭たがみバンブー12026」が開催されています。町が誇る竹と豊かな自然を生かし、多くの皆さんの手によって作り上げられた竹あかりが、町内を幻想的に彩っています。このイベントは、実行委員会の皆さんはじめ、地域の皆さんやボランティアの皆さん、子どもたち、そして多くの関係者の皆さんの力によって支えられています。

こうした取り組みを通して、改めて田上町には「自分たちの町をもっと良くしたい」「地域を盛り上げたい」という思いを持つ方々がたくさんいることを、大変心強く感じています。

田上町には、豊かな自然や温泉、竹、歴史や文化など、多くの魅力があります。私たちが毎日暮らしていると、それが当たり前になり、気付かないこともあるかもしれません。しかし、こうした地域の宝を大切に守り、さらに磨き上げ、町の内外に発信していくことが、これからの田上町の元氣と未来につながるものと考えています。

私は、町民の皆様が「田上町に住んでいてよかった」「これからこの町で暮らしていきたい」と思える町づくりを進めていきたいと考えています。そのためには、行政だけではなく、町民の皆様一人ひとりの思いや、地域でのつながりが何よりも大切です。この機会に改めて田上町の魅力を再発見して、田上町の良さを次の世代へつないでいければと思います。

季節の変わり目ですので、どうぞ健康に十分ご留意いただき、実り多く、心豊かな秋をお過ごしください。

新潟県央基幹病院 血液内科のスタートにあたって

済生会新潟県央基幹病院
血液内科 増子 正義

2026年4月より済生会新潟県央基幹病院での本格的な血液内科診療がスタートしました。すでに多くの県央地区の患者さんをご紹介いただき、この地域でのニーズの高さを実感しております。

当院の理念は「県央を日本の地域医療のモデルに一常に変化と成長を」「県央地域の患者は県央で診る」ですが、これはまさしく血液内科診療にも当てはまります。地域の医療機関の協力を得ながら、常に地域の皆さんのニーズをとらえて最適な治療を提供するよう心掛けたいと思います。

血液内科の病気というと時々マスコミを賑わす白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫という病気を思い浮かべ、強力な化学療法で副作用に苦しみ、長期の入院を余儀なくされるといったイメージを持つ方が多いと思います。

近年の血液内科分野の進歩は著しく、特定の分子に作用し、腫瘍特異性を高めた分子標的薬や抗体薬が多く開発され、これまでは同種造血細胞移植を行わなければ完治できなかった疾患が、これらの治療薬で治るようになってきました。また、高齢者や併存疾患を持っている患者さんにも行える内服抗がん剤による治療や強度減弱型化学療法も進歩し、より多くの患者さんに標準療法が行えるようになりました。現在では、多くの患者さんが自宅で生活できる期間をできるだけ多くとりながら、継続して治療を行えるようになっています。悪性疾患以外でも、難病とされている血液疾患の治療も著しく進歩し、患者さんのQOL(生活の質)は向上しています。

血液疾患は患者さん自身ではなかなか認識しにくい病気ですが、かかりつけのクリニックや健診で血液疾患の疑いを指摘された場合は、当院を受診していただければと思います。

○このコラムは、病院ホームページ内の「医療の窓」
(医療についての最新情報をお届けするコーナー)
にも掲載しています。



〈病院HP〉

問い合わせ：済生会新潟県央基幹病院 総務広報課 ☎0256-47-4700 (代表)